

500mL

外用殺菌消毒剤

希ヨードチンキ「マルイシ」

Dilute Iodine Tincture 「Maruishi」

日本薬局方

希ヨードチンキ

製造販売元

丸石製薬株式会社

大阪市鶴見区今津中2-4-2

希ヨードチンキ「マルイシ」

500mL

2014年9月改訂(第2版)	
日本標準商品分類番号	872612
承認番号	16100AMZ01027
薬価収載	1955年9月
販売開始	1955年9月
再評価結果	1983年4月

貯法: 室温保存。

使用期限: 3年(表示の使用期限を参照すること。)

注意: &lt;配合変化&gt; マーキュロクロム液とは沈殿を生じる。

●禁忌(次の患者には使用しないこと)  
ヨード過敏症の患者

## ●組成・性状

## 1. 組成

100mL中 ヨウ素 3g  
及び添加物としてヨウ化カリウム、エタノール 含有。

## 2. 性状

暗赤褐色の液で、特異なにおいがある。  
比重  $d_{20}^{20}$ : 約0.93

## ●効能・効果

皮膚表面の一般消毒、創傷・潰瘍の殺菌・消毒、歯肉及び  
口腔粘膜の消毒、根管の消毒

## ●用法・用量

本剤をそのまま、又は2~5倍に希釈し、1日2~3回患部及  
び皮膚に適量塗布する。

## ●使用上の注意

## 1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる  
調査を実施していない。

	頻度不明	0.1%未満
過敏症 <sup>注)</sup>		ヨード疹等
皮膚 <sup>注)</sup>	刺激症状	

注)このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

## 2. 臨床検査結果に及ぼす影響

血漿たん白結合ヨード(PBI)及び甲状腺放射性ヨード  
摂取率の検査値に影響を及ぼすことがある。

## 3. 適用上の注意

投与経路: 外用にのみ使用し、内服しないこと。

使用時:

- (1)眼に入らないよう注意すること。入った場合には水  
でよく洗い流すこと。
- (2)粘膜、創傷面又は炎症部位に長期間又は広範囲に使  
用しないこと。
- (3)深い創傷に使用する場合は希釈液としては注射用  
蒸留水か滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用い  
ないこと。
- (4)同一部位に反復使用した場合には、表皮の剥離を  
伴う急性の皮膚炎を起こすことがあるので注意す  
ること。
- (5)口腔内に使用するときは、患部を乾燥させて塗布  
すること。
- (6)本剤は引火性、爆発性があるため、火気には十分  
注意すること。

製造番号

使用期限

キャップ: PP  
ガラス: 瓶

↑バーコード用単位包装剤包  
↓



(01)04987211222130

↑バーコード用単位包装剤包  
↓



(01)14987211222130

500mL

外用殺菌消毒剤

希ヨードチンキ「マルイシ」

Dilute Iodine Tincture 「Maruishi」

日本薬局方

希ヨードチンキ

製造販売元

丸石製薬株式会社

大阪市鶴見区今津中2-4-2

500mL  
希ヨードチンキ「マルイシ」

2009年5月作成(第1版)	
日本標準商品分類番号	872612
承認番号	16100AMZ01027
薬価収載	1955年9月
販売開始	1955年9月
再評価結果	1983年4月

貯法：室温保存。

使用期限：3年(表示の使用期限を参照すること。)

注意：〈配合変化〉マーキュロクロム液とは沈殿を生じる。

- 禁忌(次の患者には使用しないこと)  
ヨード過敏症の患者

## ●組成・性状

## 1.組成

100mL中 ヨウ素 3g

及び添加物としてヨウ化カリウム、エタノール 含有。

## 2.性状

暗赤褐色の液で、特異なにおいがある。

比重  $d_{20}^{20}$ ：約0.93

## ●効能・効果

皮膚表面の一般消毒、創傷・潰瘍の殺菌・消毒、歯肉及び口腔粘膜の消毒、根管の消毒

## ●用法・用量

本剤をそのまま、または2～5倍に希釈し、1日2～3回患部及び皮膚に適量塗布する。

## ●使用上の注意

## 1.副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明	0.1%未満
過敏症 <sup>注)</sup>		ヨード疹等
皮膚 <sup>注)</sup>	刺激症状	

注)このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

## 2.臨床検査結果に及ぼす影響

血漿たん白結合ヨード(PBI)及び甲状腺放射性ヨード摂取率の検査値に影響を及ぼすことがある。

## 3.適用上の注意

投与経路：外用にのみ使用し、内服しないこと。

使用時：

- (1)眼に入らないよう注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。
- (2)粘膜、創傷面または炎症部位に長期間または広範囲に使用しないこと。
- (3)深い創傷に使用する場合は希釈液としては注射用蒸留水か滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用いないこと。
- (4)同一部位に反復使用した場合には、表皮の剥離を伴う急性の皮膚炎を起こすことがあるので注意すること。
- (5)口腔内に使用するときには、患部を乾燥させて塗布すること。
- (6)本剤は引火性、爆発性があるため、火気には十分注意すること。

製造番号

使用期限



キャップ：PP

ガラス：瓶

GS1-FSS



(01)1498721122133

JAN



4 987211 122133